



## こならリハビリしています



今回デイサービスとデイケアを併用しながら、在宅生活を継続されているYさんの紹介をします。

Yさんは、膝の強い変形により可動域制限があり、歩行時には体幹が側方へ大きく移動する現象がみられています。本人から痛みの訴えは聞かれませんが、疼痛逃避が歩容を乱す要因の一つと考えられます。一般的に膝関節痛は主として運動時痛であり、特に階段昇降や長距離歩行時に多いとされています。普段は、石段や坂道のある自宅の広い敷地内を歩行補助具の使用なくお一人で散歩されています。夏場は草取りや野菜の世話をするなど活動的に過ごされていますが、認知機能低下の影響もあり、本人判断で歩行距離を調整することが困難です。現在は膝関節の状態は保たれていますが、今後、膝関節痛の出現や増悪によって歩行能力や日常生活動作能力の低下が予測されます。また、ご利用開始時と比較して発語が少なくなり、身の回りの動作においても介入が多くなっており、フロアスタッフと生活面での情報共有や認知機能評価を定期的実施して経過を追っています。

リハビリでは、他利用者様と共に立位を含めた全身体操への参加や関節の状態を確認しながら膝関節周囲筋の筋力向上練習を行っています。認知機能面については、手作業（ネット手芸）を提供しており、針を刺す場所が分かるように土台となるネットに赤いテープを貼り、お一人でも取り組みやすいよう工夫しています。Yさんは手先が器用で、小さい穴に糸を通し反復する作業にも集中して取り組むことができます。言葉の穴埋め問題では、読み書きしながら日時や季節、時間等の確認を行っています。猫の話になると笑顔をみせて下さり、こちらも思わず顔がほころんでしまいます。リハビリでの関わりの中で、自発的な発言が得られるよう心掛けています。

デイケアは、健康管理や心身機能の維持改善、日常生活の自立支援を目的としており、各専門職が配置されています。リハビリ専門職として心身機能を把握し状況に合わせたリハビリを提供し、現在の生活が継続できるよう支援することが大切であると感じています。

( 杉元 )

